

感染性胃腸炎（ノロウイルスなど）について

感染性胃腸炎（ノロウイルスなど）は手指や食品などを介して、経口で感染し、ヒトの腸管で増殖し、おう吐、下痢、腹痛、微熱などを起こします。ノロウイルスは感染力が強く、大規模な食中毒など集団発生を起こしやすいため、注意が必要です。

特に子どもや高齢者は重篤化することがありますので特にご注意ください。また、ノロウイルスにはワクチンがなく、治療は輸液などの対症療法に限られます。そこで、保育所・保育園、認定こども園、幼稚園等保育施設で有効な予防策を掲載しましたので、各施設のマニュアル作成などへ活かして頂ければ幸いです。なお、ここでの記載は社会福祉施設等でのノロウイルス対応を中心とした記載となっていますが、その他の園や家庭での対応も、その他の胃腸炎を起こすウイルスでも同様に行います。

> 下痢・嘔吐の対応（感染症対策委員会：令和3年12月）

> 東京都福祉保健局（参考）

社会福祉施設等におけるノロウイルス
対応標準マニュアルダイジェスト版